

まちおこしクラブ

ハピたクラブ



◀ 愉快的仲間たち

多久をハッピーにしたい若者

『元気まつり』を盛り上げましょう!

部員募集中!

昨年3月に元気まつりを手伝わせて頂いたときに、「若い人たちが見せる元気や笑顔で私たちが住んでいくこの町が元気になるように、できることがあるのではないか」と感じ発足したのが『ハピたクラブ』です。

現在は、多種多様な職種の15人がメンバーで、毎月第3土曜日19時から市内の居酒屋に集まり、多久について熱く語っています。人が人を連れて来てくれるので、人とのつながりに感謝しています。これからはイベントの企画や穴場スポット紹介など、ラジオやテレビ、ネットなどを通じて、多久を若者目線で情報発信できるような倶楽部活動にしていくのが目標です。代表の笹川知子さんは「背伸びせず自分たちにできることを無理なく、楽しく継続していきたいと思っています。興味を持っていただいた方、まずは5月15日の『元気まつり』でイベントスタッフとして一緒にイベントを盛り上げましょう」と部員を募集中です。

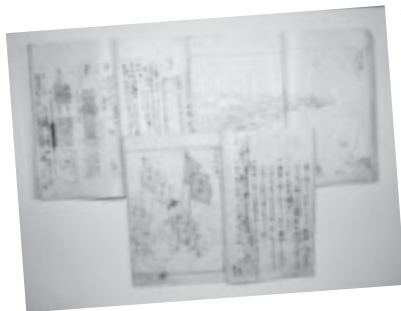
問 発起人代表 笹川 ☎090-5384-1260

● 連載1 ● 郷土資料館で学ぶ多久の歴史

くさば はいせん

博覧多識の儒学者 草場佩川

多久町で生まれた草場佩川(1787~1867)は、東原彦舎で学び佐賀藩校「弘道館」で佐賀の七賢人の大隈重信、副島種臣、江藤新平らを教えたとされる江戸時代後期の国内屈指の儒学者です。早くから気鋭の学者として知られ、朝鮮通信使の来日の際(1811)には、通信使と応対し、「天下の奇才」と賞されました。このとき佩川が著した「津島日記」は美しい絵入りで、貴重な記録であるだけでなく目も楽しませてくれます。教育者や役人として時の多久領主を支えたほか、武芸、詩歌、絵画などにも優れた才能を持ち、漢詩では生涯2万首あまりを残したといわれる漢詩人で、まさに博覧多識の人です。



◀ 佩川が仕えた多久領主の肖像画や「津島日記」(写真)をはじめバラエティ豊かな作品を約70点展示しています。この機会に郷土の先覚者の足跡に触れてください。

多久市郷土資料館企画展

『博覧多識の儒学者 草場佩川』

会場 / 多久市郷土資料館 2号・3号展示室

日時 / 4月3日(日)~5月15日(日) 9時~16時

休館日 / 月曜日(月曜が休日の場合は翌火曜休館)

入館 / 無料

■ 問い合わせ先 多久市郷土資料館 ☎75-3002

市民文芸

短歌

《麦の芽短歌会 互選》

もうでなくまだ七十歳胸を張り

足音軽く新春の街

本村 則子

師の君の碑の前歌会桜花

迎える如く一斉に咲く

本田 静香

遠くても知人と見れば近づいて

何かを話す嫌われずして

迎 寿代

就職の決まりし孫の発つ朝

すくわれそうなの向い風吹く

川浪 信子

収めいし新聞記事の師と会いぬ

八十三歳の面輪豊けし

尾形 節子

俳句

《あさみ句会 互選》

三輪車乗れる児となり風光る

中嶋 清子

耕すや夫の遺せし鎌の摩れ

大石ひろ女

うたた寝の覚めれば夫も春炬燵

武富りつ子

木の芽風身近き人を送りけり

田中あつ子

抱き上げし幼女のぬくもり

桃の花

光野 正子

川柳

《多久川柳会 互選》

入学の子が撮る母の晴れ姿

大谷 和

千の風の父が頬なで通り過ぎ

松下 修

連休も笑顔で帰る五月晴れ

木下 ユキ

そよ風もマスクで受ける花粉症

井上 東子

極楽も地獄も招く原子力

西山 残月